

教材をとりこむ「円環学習」の提案

縫 部 輝 雄

目 次

- (一) 円環学習について
- (二) ひとつの実践
- (三) 全体の学習指導過程
- (四) 六時間の学習指導過程
- (五) 結果資料と問題点
- (六) 結び
- (七) 円環学習について

指導要領には「書くこと」に 2、10、「話すこと、聞くこと」に 1、10 程度充てることが望ましいと規定しているが、実際にはほとんど緻密な年間計画でもねられていないかぎり、十分に満足させることはむづかしいのではなからうか。かりに時間的には満たされていても、中味は作文ばかりであったり、スピーチに偏っていたり、「聞くこと」の訓練に至ってはまったくなされないままなのが大方の実状のようだ。

現行教科書が、同種類の教材ごとに一つの単元としてまとめられ

て編集されている以上、「読み、書き、話し、聞く」という四つの学習活動は単元内でそれぞれに扱われ、全体としては個々ばらばらのまま行なわれていてもいたしかたのないことであろう。むしろ、個々ばらばらのまま行なわれたら何かに支障があるというものではあるまいが、一つにまとめて能率よく扱える体系的なものがあればこれにすぎるものはないわけである。しかも、一つの単元が終わったからすぐ次の単元に入るといふふうに機械的に扱っていくのではなくて、一つのテーマとある視点に立って、関連した教材をとりこんで、一つの場の中で教材を生きたものにしていくということは案外に大切なことなのではなからうか。

以上のような反省に立って、かりにわたしは「読み書き、話し、聞く」の四活動を一つの「環」として結んで、そのなかに関連した教材をとかしこんでいくという学習方法を試みてみたのである。そのとき、四つの活動のどこから入っていても必然的に展開されていくように工夫することが肝心であるが、以下の実践ではもっとも無難に、読み→書き→話し→聞くの順に転がしていったのである。したがって、一回転させたばあいに四つの学習活動の機能は一応果されることになって、前記のような一つの学習活動への偏重は

一度に解消されてしまうわけである。できれば四活動を個々ばらばらに扱ったときより、同時に扱うことによって互いが拮抗的にはたらくきあって効果が倍加されるものであるにこしたことはないが、現段階では希望にすぎない。

この学習法は「円環学習」と名づけるのがふさわしいと思ってい
る。プログラム学習、スキル学習といった調子でいうのがよけれ
ば、「サーキュレーション学習」である。

(二) ひとつの実践

- 日時 二月四日～三月七日
 - 対象 広島国泰寺高校定時制課程 一年A組 四十五名
 - 教科書 角川書店「現代国語Ⅰ」
- ウ 全体の学習指導過程

時	学習活動	指導の概略	備考	指導事項
1	<p>「友情について」</p> <p>通読</p> <p>(1) 友情への関心をクローズ・アップする。 ○ 友情は必要ないと思うもの ○ 友情の示された思い出のあるもの ○ 友情に救われたことのあるもの ※ わたし(教師)の友情について (2) 読む前の注意事項 ○ 難解な語句・表現をマークする。 ○ 特に感心し印象深い部分に傍線。 通読する。 (3) (4) (5) の指摘発表 (2) の指摘発表 作文題の決定 「教科書の意見にふれて」の外に、下の中から三つを選んで加える。</p>	<p>(1)の○は掌手させる。 作文題例示 ○ 友達が必要なのか(一七) ○ 親友について (一五) ○ 友情が生まれるとき(六) ○ 悪友について (三) ○ 「すり切れないうちに」 友達を捨てることについで (二)</p>	<p>○ 作文題四つ 板書</p>	<p>読むこと</p>
	<p>(1) 作文題四つのうち、各自どれにするかを定める。 ○ 教科書の意見にふれて ○ 友達が必要なのか</p>			

<p>4</p> <p>作文する</p>	<p>3</p> <p>作文 (準備2) 教科書導入</p>	<p>2</p> <p>作文 (準備1)</p>
<p>(3) 次の時間の前半までに仕上げるように用意しておくこと。</p> <p>○ 強いて用紙一杯に書くことはない。</p> <p>○ 段落・句読点</p> <p>○ 用紙(→)をフルに活用すること。</p> <p>○ スピーチの原稿となること。</p> <p>(2)(1) 次の点に注意して書く。</p>	<p>(1) 作文はスピーチの原稿となること。</p> <p>(2) そのために「文章を書く手順」を読む。</p> <p>○ 表題と内容の一致</p> <p>○ 大きな話題の限定</p> <p>(3) 「何を書くか」の具体化、全体の見通し。</p> <p>1 主題</p> <p>2 細目(材料)</p> <p>3 順序</p> <p>4 書き表わす</p> <p>(4) 不十分な部分の書き換えをする。</p> <p>(5) 材料の整理とP・52の実例を参考にして、意図する内容を順序立てる。</p>	<p>○ 親友について</p> <p>○ 友情が生まれるとき</p> <p>(2) 作文の準備として次の作業を行なう。</p> <p>○ その作文題でもっとも言いたいことを「一文」で書いてみる (主題文の欄)</p> <p>○ 作文題に関して連想される知識・経験をできるだけ書く(材料の欄)</p>
<p>○ 用紙(→)の配布</p> <p>○ まだ「内容の順序立て」のできていないものにはすぐにさせる。</p>	<p>○ 要点ごとに切って簡単に説明を加える。</p> <p>○ 同類のものはまとめ、実際に書く順序にしたがって番号をうたせる。</p> <p>○ 以上、できなかった者は宿題とする。</p>	<p>○ 用紙(→)の配布 (参考資料(1)のもの)</p> <p>○ 用紙(→)の説明</p> <p>○ 作業ができなかったものには宿題として課す</p>
<p>書くこと</p>	<p>読むこと 書くこと</p>	<p>書くこと</p>

<p>相互批評 教科書導入</p>	<p>7 スピーチ (聞くことに 重点)</p>	<p>6 スピーチ</p>	<p>5 作文の仕上げ と 「よい聞き方」 への導入</p>
<p>(3) 相互批評をする。</p> <p>(2) 批評基準として、特に重視すべき項目の指摘。</p> <p>(1) 「文章を書く手順」の後半を読む。</p> <p>一、全体の検討(1、2、3)</p> <p>五、朗読による検討</p> <p>六、まちがいの検討</p>	<p>(1) 発表者を指示。 「脇本君」 …… 以上六名</p> <p>(2) グループ討議の後、発表者に簡単に反省の弁を述べさせる。</p> <p>(3) グループのまとめの発表 ——上手な聞き方への反省事項の発表をも含む——</p> <p>(4) 発表者への自由な質問</p> <p>(5) 教師概評(発表者には勇気づけを忘れないようにする。)</p>	<p>研究授業につき別紙とする。</p>	<p>(1) 本時の前半 作文の仕上げ 本時の後半</p> <p>(2) 次の時間から二時間スピーチを行なう。 発表者は出席番号6と0のつくもの ——初めから男女交互に行なう——</p> <p>(3) 聞く側は四人グループ制をとる。 よい聞き方を身につけるにはどうすればよいか。 ——参考資料として「よい聞き方」を読む——</p>
<p>○列ごとに作文用紙を回収し、列をかえて再分配する。</p>	<p>○話し方減点評価表の配布</p> <p>○テープ・レコーダー設置</p> <p>○ストップ・ウォッチで計る。</p> <p>○次時には、相互評価を行なうから作文用紙を絶対に忘れないように注意する。</p>	<p>○話し方減点評価表の配布</p> <p>○テープ・レコーダー設置</p> <p>○ストップ・ウォッチで計る。</p>	<p>○でき上っているものには言いやすいわかりやすい文章であるかどうかを検討させ、部分的に書き改めさせる。</p> <p>○グループに組ませる。</p> <p>○発表者はよく練習しておく。</p> <p>○よく注意しておく。</p>
<p>読むこと</p>	<p>聞くこと 話すこと</p>	<p>話すこと 聞くこと</p>	<p>書くこと 聞くこと</p>

<p>10</p> <p>教科書に ふれてのマトメ</p>	<p>9</p> <p>書き換え作業</p>	<p>8</p>
<p>(1) 作文の概評</p> <p>○ 主題の計画の欄を書いていないものが多い。</p> <p>○ 全般に用紙(≡)は(□)よりも多くの点でよくなっている。</p> <p>○ それでも誤字、かなづかいの間違いがあるが、これは日頃の心がけによるものだ、など。</p> <p>(2) 教科書の意見にふれて、みんなの考えを出しあう。</p> <p>㊦ 「悪口を言うことは、人につきあう上において、必要欠くべからざるエチケット」というが、悪口のある友情をどう思うか。</p>	<p>(4) 次時予告</p> <p>1、批評欄に基いて書き換え作業をする。</p> <p>○ 書き換えは思い切っておこなう。</p> <p>○ 書き換える部分には傍線をほどこしておくこと(宿題)。</p> <p>2、書き換える必要を感じないものは「友情について」の質問カードを提出してもらおう。</p> <p>3、用紙(≡)も忘れないで持ってくる。</p> <p>(1) 書き換え作業をする。</p> <p>○ 清書であること。</p> <p>○ 今までの成果を実らせること。</p> <p>(2) 書き換える必要のないものにはカード配布。(実際には一人も現われず。)</p> <p>(3) どう書き換えてよいかわからないものは相談にくること。</p> <p>(4) 評価に関する注意</p> <p>○ 作文の評価は30点である。</p> <p>○ ただし、一枚も出さないものには40点の減点とする。</p> <p>(5) 用紙一、二、三を上から順にとじさせる。提出。</p> <p>(6) 次時予告「友情について」のマトメ</p>	<p>(4) 次時予告</p> <p>○ 相互批評後、一たん回収して、またもとの人に返す。</p>
<p>○ 「教科書の意見にふれて」を書いた三人の意見を適時言わせてみる。</p>	<p>○ ホッチキスの用意</p> <p>○ カードの用意</p> <p>○ 用紙(≡)の配布</p>	<p>○ 相互批評後、一たん回収して、またもとの人に返す。</p>
<p>聞くこと 話すこと</p>	<p>書くこと</p>	<p>書くこと</p>

(4) 六時限の学習指導過程

- (1) 「友情からんで、自分を殺す」のがよいと思う人、悪いと思う人、また、それぞれの意見。
- (2) 友達を「すり切れないうちに捨てて」ていく人をどう思うか。
- 親友の名に値するかどうか。
- (3) 友達に捨てられないためには、どうすればよいと思うか。

形 指 導 内 容 分 備 考

本時の目標 ○スピーチとスピーチを聞いて評価し、マトメて発表する体験をもたせる。

導入

- (1) 四人制グループを組ませる。
- (2) 話し方減点評価表を説明する（参考資料(3)のもの）

- 聞くことに重点をおく。
- 減点評価表の十項目に評価カードをあわせて該当項目に○印する。
- 特点十から○印の数だけ差引いて記入する。

- (3) 「よい聞き方」の最後の部分の換起
- 予期観念を働かす。
- 注意を集中する。

- (4) グループを教室の前と後で二分し、「発表を聞く」「発表を評価する」の活動を交互に行なうこと。

展開

- (5) 発表者はまず番号、氏名、発表題をいうこと。
- (6) 発表者の指名

- 「大見さん」 (友達に必要なのか)
- 「島山君」 (親友について)
- 「児玉さん」 (友達に必要なのか)
- 「榎本君」 (友達に必要なのか)

8

発表者に自信をもたせる。
「自信をもってやれ」

板書

- グループは早くくませる。
- 減点評価表の配布 一人につき 一枚
- 減点評価表 一枚
- 評価カード 三枚

批 評 会	校 内 研 究
<p style="text-align: center;">〔長 所〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループを二分するのは能率がよい。 ○ 評価表で聞く姿勢ができ、成功。 ○ 一カ月間の見通しのもとにやる自信が生徒にいい影響を与えている。 ○ スピーチを研究授業でとりあげるのには珍しい。また意欲的。 <p style="text-align: center;">〔短 所〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 評価表によって評点を言わせるのは感心しない。 ○ スピーチの最中、ヤジらせないようにする。 ○ 最後に教師がほめてやる必要がある。 ○ 評価表(1)~(6)はムリな点がある。 	<p>次時予告</p> <p>(10) つぎの時間は、だれに当るかわからないから皆練習しておくこと。</p> <p>(9) 評価カードは発表者に渡してやること。</p> <p>整理</p> <p>(8) グループの発表者はわかりやすく一分程度で行なうこと。</p> <p>発表例 第一班の発表要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大見さん。材料を生かすように。自分の体験が多く内容が暗すぎた。 ○ 児玉さん。早口で聞きとりにくかったが、内容は大変よかった。 ○ 土井さん。朗読調。姿勢をよくするように。わかりやすかった。 ○ 全般に姿勢・視線がわるく、文章構成が不十分である。 <p style="text-align: right;">「土井さん」(友達に必要なのか) 「本下君」(親友について) 以上六名 自由討議に入る。 グループごとに ○ 「発表者と記録係」を決める。 ○ 十分でまとめる。</p>
44	30 20
	<p style="text-align: center;">「」板書</p> <p>○グループ発表は、はじめ奇数の発表者(女子)について言わせる。即ち教室の前半分に言わせてから、後半分に言わせる。</p>

(⇒) 結果資料と問題点

最後の10時間目の授業は学年最後の授業となったので、指導過程表の「教科書の意見にふれて」はかけ足ですませて、残り時間でアンケートをとったが、期末試験を目前にして生徒たちは落着かなかったのか、最後の「円環学習についての感想」欄には期待するほどのものを書いてくれたものはあまりなかった。学習日記の方は試験答案とともに提出させたが、約束のノート10点評価は忙殺されたため実際には検印だけに終わってしまった。感想文、学習日記から長短とりまぜて主なものをあげてみると、

- 1 今までの授業と違い、よい勉強になったと思う。これからも機会があったらどん／＼やってほしい。(女)
- 2 非常に興味深かった。国語のほとんど全域にわたっての勉強であり、収穫は大きかったと思う。しかし、毎時間同じようなことを勉強するので、退屈な時もあった。(男)
- 3 もう少し授業時間にゆとりがあったら、ミッチリ勉強できたとと思う。しかし、円環学習というものには大いに賛成できる。これからもこんな授業をうけたい。(女)
- 4 方法には賛成できますが、内容的にはまだ未熟と思います。もう少し家でするようにしたら、もっと充実した授業になったのではないのでしょうか。
- 5 二分間スピーチでは、聞き手をうまく話の中へ引きこむことはむづかしいと思う。だけど、できないことはないと思う。12名の発表者には気分を集中させて聞かせるという文章の人はなかったし、話し方そのものももっと練習すべきであったろう。僕はス

ピーチ及び文章の作成にもっとも努力すべきことがわかった。僕にとってはこの上ない授業の進め方だったと思えた。僕はスピーチや文章の作成について、今までの授業を基にして努力してみつもりです。最後にこの学習の反省会をクラス全体でやればよかったと思います。(男)

以上 感想文

- 6 日常において作文にはあまり接しないので、書くのが下手になり下手になるから嫌いになるというようだから、たまにはこの度行ったような「円環学習」を行ってほしい。(男)
- 7 グループを二つに別けてやるのは能率が上がり、よかったと思う。しかし、私の残念でなかったのは、スピーチ発表をやりたかったことです。人の前で話すときの度胸を少しでも養いたかったからです。(女)
- 8 今日は大変おもしろかった。第一、人の作文に文句をつけるのがよい。ほめる方は少ししか書かなかった。むしろくさす方が大部分だ。しかし、その人にもほめるより注意した方がためになるだろう。(男)
- 9 自分の作文への批評は自分の作文の悪いところが遠慮なく書いてあったので、自分が気づかなかったところもなおせるのでよいと思う。
- 10 特に最近の授業は自分で絶対やりとげなければならぬ課題が出されるので、家庭学習が多くの時間を費し、少々気分的につかれた。でも、大きな収穫を感じたときのよろこびは何ともいえない。(女)

以上 学習日記

アンケートは参考資料以上のものではないが、およその傾向を知るのが便利である。主なものだけあげておく。

① 田環学習については

項	目	計
得るところがあった	41	91.1%
得るところはなかった	2	4.4%
わからない	2	4.4%

② この学習によって積極的に参加するように

項	目	人数	%
なった	24	53.3%	
ならない	5	11.1%	
わからない	16	35.5%	

③ いろんな作業のうち効果があったと思うのは

項	目	男	女	計	%
主題文一文	2	2	3	5	11.1%
材料集め	3	5	3	8	17.8%
材料の整理	4	3	7	10	22.2%
文章の順序立て	6	12	18	30	66.7%
スピーチの練習	12	2	14	16	35.5%
		40	40	80	100%

④ この期間中は

聞き方の演習	相互批評	書き換え・清書作業	わからない
5	7	12	26.6%
6	11	17	37.6%
3	3	6	13.3%
1	1	1	4.4%

項	目	人数
忙しかった	27	
忙しくなかった	18	

問題点

以上「読み、書き、話し、聞く」を結んだ環のなかに三つの教材をとりこんで展開させたわけだが、その外側のワクになっている「友情について」をふり出しの具にとどめないで、これをも田環のなかにとりこんで田環学習を読解の有力な武器にできれば「読み」を中心とした田環学習を展開させることができる。それでは「読み」「読み」は単なる「読み」に終って読解にはならない。これはひそかに苦心して物にならなかった点であるが、友情についての各自の作文を土台にして「友情について」の教材にはね返ったならば、各自の見解を生かしながら効果的に進めることができるように思われる。さらに、ここでもめた友情に関するテーマのもとに「白い蜘蛛」における友情を比較しながら考えさせていくというふうに進めていけば、教材そのものを環の要素とした田環学習が可能となり、

「読み、書き、話し、聞く」を環の要素とした円環学習からの発展となる。これは試案にすぎぬが、案外な収穫がありそうに思われる。

目標・学習指導過程・評価は一貫したものでなくてはなるまい。実践の途次ではあったが、この円環学習の目標として次のものをおか
かけていた。

ア 授業の雰囲気は弱をいれる。

イ 指導要領にいう 3/10 を完成する。

ウ 四活動の偏りをなくする。

エ それぞれの活動を拮抗的に高める。

オ 一つの構想の環のなかに教材を取り入れて、教材を生きたものにする。

この目標はエを除いて生かしたと思っているが、学習指導過程から評価への面で一貫性に欠けていたように思う。一応の作文評価基準は相互批評のための批評基準として示しはしたが、教師の評価基準とした作文減点評価表(参考資料(何のもの))とは相当に違ったものになってしまった。これでは生徒を迷わせることとなる。

43人分の作文用紙合計一六枚分の採点評価が三時間程度でできたのは減点式の威力であろう。それにしても作文の30点満点の平均点が二・一、三であって、百点満点に換算すると平均七〇、三となり、試験問題の百点満点換算(実際には七〇点満点)平均の56点に比べればかなり甘くなっている。さらに、作文減点評価表の項目をみると、もっとも多い反応数は

- 1 句読点のうち方がよくない……………24
- 2 文字がいていねいでない……………23
- 3 材料の整理・順序立てができていないか、不十分……………21

の順であり、形式的末梢的項目に偏っている。反対に少ない方では

- 1 構想・独創・全体の価値に欠ける……………3
- 2 分量が多すぎるか、少すぎるか……………5
- 3 主題が終りまで一貫していない……………6

4 材料の整理・順序立てができていないか、不十分……………6

であり、どちらかといえば基本的で抽象的な項目が大むねなおざりにされていることがわかった。いずれにしてもこれは減点評価表のせいではなくて、採点者の陥りやすい盲点であるようだ。

評価項目が総花的なのはキレイごとにはすぎない。作文指導は集中的な指導の積み重ねでなくてはならないと思う。

アンケート④にあるようにたいはいの生徒は忙しかったと訴えているが、ぜんぜん授業についてこれなかったもの(全用紙の未提出者)は二名、用紙(一)が欠のもの五名、用紙(二)が欠のものそれぞれ一名おり、感想文などにも進度をもう少しスローにやっけてほしかったと言っているものが多い。作文を基本にしていくばあい家庭学習をぬきにしては考えられないわけだが、定時制のばあいには極度に家庭学習の時間が圧迫されていて、前記のものを根治することはむつかしい。毎時間の課題に答えられるような体制をしておくことが前提になると思う。

(四) 結 び に

円環学習についてはすでに興水実氏が「講座国語科の基本的指導過程4」の22ページで「機能的主題をめぐって、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの学習活動が必然的に展開し、それによって必要な言語能力がいて行くようになっていくことが望ましい」とい

っておられるわけで、わたしはその考え方を実践し、名称を冠したことになる。

「読み、書き、話し、聞く」に基いて展開させていくばあい、かまませ方によってかなり効果の違ったものがえられるであろう。まずはその辺から確かめていくべきだと思っている。円環学習が有力な教授法となるためには「読み、書き、話し、聞く」の四活動相互間の関連はどの程度あるのか、——ある組合わせによってはあり、ある組合わせによってはないというものなのか、工夫次第で関連の必然性が完全に生みだせるものなのかどうかが解決されなければならぬ。夏の発表のとき、野地先生から特に「大單元方式ともいうべきもので意欲的」とほめられたものの、以上の実践はなお問口のように思われる。

(41・9・4)

なお、この夏発表したものにいくらか手を加えたものです。

参考資料

- (1) 用紙(一)——二時限使用のもの——
- (2) 用紙(二)——四時限使用のもの——
- (3) 話し方減点評価表——六時限使用のもの——
- (4) 用紙(三)——九時限使用のもの——
- (5) 作文減点評価表

(1)

	題		学年		組		番号
			氏名				
	主題文(一文)						
	○ ○ ○ ○ 具体的で強力な三、四の材料(体験・知識による)						
	○ ○ ○ ○ 右の材料を見通して、同類のものに同じ符号をつけ、それらを述べる順序に従って番号を打つこと。						
主題を述べる素材が揃ったわけであるが、なお、主題を述べる計画を確かめておくこと、実際に当って書きやすい。 教科書52ページの实例を参考にして、各自、主題を述べる順序を書こう							

(西洋紙)

(3)

(2)

1	話し方減点評価表
2	全体の構成が悪い
3	材料が生きていない
4	結びが弱く不適當
5	題からはずれた部分があった
6	考え方が明快でない
7	ことばの選択が悪い
8	声量不足
9	速さ、間のとり方がまずい
10	姿勢、視線が悪い
11	聞き手を考慮していない

※該当欄には○印をすること。したがって○印のないところはよいわけである。発表者よ、自信をもて。

題	二分間スピーチ
番号	()
批評欄	批評者番号 ()

(西洋紙)

持点	10
発表者	()
批評者	()

(5)

(4)

作文減点評価表		持点	30
用紙一	1.	主題文がない。又は主題文としてふさわしくない。	
	2.	材料量の不足、又は具体的で強力でない	
	3.	材料の整理・順序立てができていないか不十分	
用紙二	4.	文字がいていないでない	
	5.	文章がスピーチ用(明快)でない	
用紙三	6.	材料がない、あるいは生きていない	
	7.	主題が終りまで一貫していない	
	8.	清書だけに終わっている	
	9.	段落分けがない、あるいは不適當	
全体	10.	句読点のうち方がよくない	
	11.	漢字、かなづかいの間違いが目立つ	
	12.	分量が多すぎるか、少なすぎる	
寸評	13.	読んで印象がうすい	
	14.	用紙一、二、三へと進歩のあとがない	
	15.	構想・独創・全体の価値に欠ける	
		差引合計	

題	()
氏名	番号 ()

(広島県立国泰寺高等学校教諭)

(西用紙)